

マルチプレックス PCR 法によるネギアザミウマの系統識別

三浦一芸（近中四農研）

ネギアザミウマ *Thrips tabaci* の生殖様式は非常に複雑で産雌性単為生殖，産雄性単為生殖および産雌雄性単為生殖が知られている（Nault et al., 2006）. 日本では産雌性単為生殖系統が広く知られていたが，産雄性単為生殖系統が存在することが明らかになってきた（Toda and Murai, 2007）. また，産雌性単為生殖系統の存在が明らかになるとともに Iris yellow spot virus (IYSV) も多発し，さらに薬剤抵抗性系統も頻発するようになってきた. これらはネギアザミウマの生殖様式が異なる系統が日本に侵入した結果かどうかほとんど理解されていないのが現状である.

そこで，まず各地で発生している系統が産雌性単為生殖系統なのか産雄性単為生殖系統なのかを個体ごとに識別しなければいけない. 外見上雄成虫は体サイズが小さいことより識別できるが，両系統の雌成虫はほとんど同じで識別できない. そのため，両系統を識別するためにマルチプレックス PCR 法を開発したので紹介する. 本方法は各地域での両系統の混在を簡単に把握できる. また，IYSV の系統を一部解析したので過去に日本で検出された IYSV との関係も簡単に紹介する.

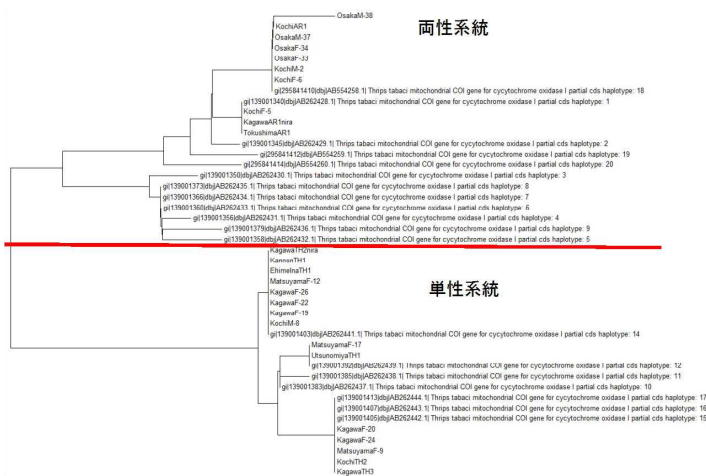


図1 COI 領域での系統樹

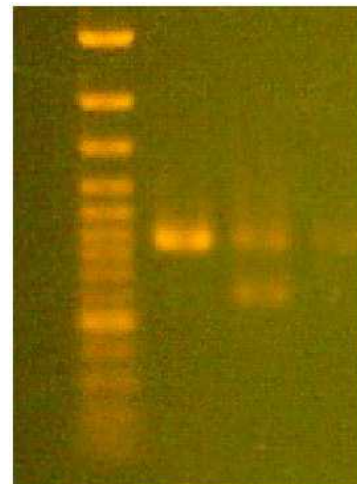


図2 マルチプレックス PCR 法による両系統の識別. 左からマーカー，両性系統（1本バンド），単性系統（2本バンド）